

みちの会だより

第11号
1996年11月21日発行
地域開発みちの会

学習会特集号

第2回学習会（フォーラムに向けての自己研修）

私にとっての10年・福田先生とリレートーク

場所 伏見ライフプラザ10階
日時 平成8年9月5日
参加者 29名

〈要旨〉

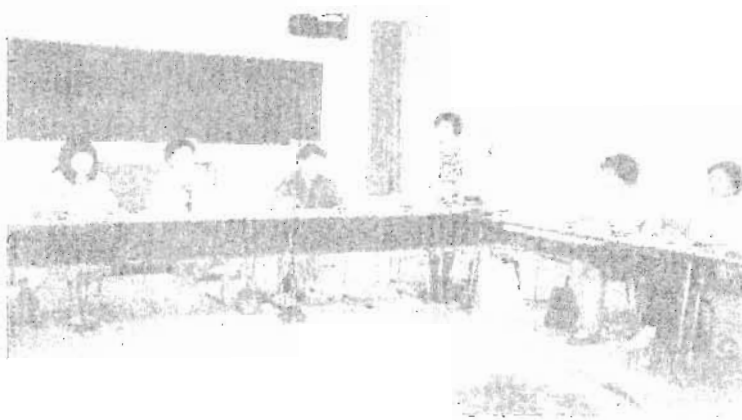
司会の山本隆子さんから資料の説明と確認があり会長の挨拶から始めた。

会長 福田先生のご指導のもとで、みちの会がどのように成長してきたか、私たち自身がどのように成長してきたか、リレートークを行いたい。

司会 フォーラムに向けての自己研修の学習会である。福田先生に、研究会からみちの会の発足当時の思い出などを伺い、その後先生とのリレートークの中で、皆さんの思いを語っていただき、自己啓発や、反省、発展へと進めていけたらいいと考えている。

先生 久しぶりにお逢いする方もあるようで……

「10周年の意味を考える」という原稿を書かせて頂いた。地域開発は昭和57年に始められた。当時、婦人問題開発研究会とは何をやろうとしている会なのか自分たちにもわかっていない



部分もあった。回りには、なおさら受け入れられにくい会であった、それが10年たった今、こんなに大きな会になるとは思ってもみなかった。当時教育委員会の社会教育課が婦人会を窓口にして婦人問題を担当していた。地域行政も、

上意下達の関係で取り組んでいた。そこへ青少年婦人室から地域開発の修了生を活用してほしいと言われても受け入れがたい状況だった。そこで修了生に“青少年育成推進員”と言う証明書の

発行を試みた。しかし知多の婦人会から反感をかった。1期、2期生の頃は、何かと厭味をいわれた。だんだん5市5町で、シンポジウム、フォーラム、講演会等が行われて、認められるようになっていった。そして活動しやすくなった。幸い地域で活動している方々であったことも良かった。それに殆どの方がとどまって頑張ってくれている。上意下達でなく、自主性を持って、社会づくり、地域づくりをしてくれた。自己開発をしてきている。

“みち”という意味を考えると、未知のロードに道を付けていくという意味で、名前にふさわしい会である。

市議会、町議会議員として、行政へ積極的な働きかけをして活躍している会員もある。

では、1期生から思いを語っていただく。

八木 開発研究会のころ、知多半島にも多くの差別や古い習慣が残っていることを知り、それらのことに取り組んでいったらいいのではないかと思った。仲良しで手作りの会として成長していった県に育成されたのに、名古屋市からはお呼びがかからず、活動の場がなかった。それで、“青少年育成推進員”と言う証明書を発行していただき、いろいろな会へ自発的に出席するようにした。だんだん行政に知ってもらえて、声が掛かるようになり、そこから学び得るものが多かった。地域開発で育てられ、行政の集まりに参加して自己開発をさせていただいた。

中川 最初は名古屋市と5市5町の思いが込み合わなくて、帰りの電車の中は、良いディスカッションの場になっていた。（来賓の挨拶の時間のことなど・・・）

知多市の虫供養の見学などをとおして、田舎の風習、習慣を見聞きしたり、早くから取り組んでいた半田市の分別収集の見学をしたりして少しずつお互いの市町を理解し合えるようになっていった。

先生 尾張事務所の小沢さんが連れていってくれた。

古い伝統を理解したり価値観の違いを悟っていく上で貴重なことだった。その頃、名古屋市は核家族化が進んでいたのに、知多は3世帯同居が多いということも家が広いから出来るのだと、実際見て知ることが出来、勉強になった。



中川 その頃名古屋市には立派な施設が出来ていた。今は知多半島にも施設がととのい、その点でもレベルを同じく出来るようになった。

八谷 講義のあと分科会で皆さんの話を聞くのが楽しみであった。

先生 知多の人が名古屋の人に対してどんな思いをしていたか。特に電車のなかで・・・

水上 （兄の言葉）名古屋の人は利口なことを言うが、しばらくすると田舎の人間の方が、上になる。

と。この言葉が自分の根底にあったので、自信は持っていた。帰りの電車の中で、名古屋の方はおしゃれで、色々もっていてついていけないね等と話に花が咲いた。

常滑の教育委員会から今回は断りにくい（1期生なし）ので（室長の伊藤桂子氏は常滑の方）ぜひにと言われた。年に7回と聞いていたがそれだけでは修了させてもらえなかった。

みちの会を思い切って作ったことが、今になってとても良かったと思っている。

永井 知多の人が地域のことを体験をし、よく知っていることに驚いた。どうして名古屋市の人と
いっしょのグループになったのか不思議な気がした。会には抵抗無く勉強させて頂いた。

先生 江上さんお久しぶりです。あのころは頑張っていたわね。相談員になったんですね。

江上 知多の方の地域に根づいた活動を目の当たりにして感動した。何の利益も求めないでアンケート
をしたり皆で話し合ったことは、自分のエネルギーになった。多くの方達との交流ができてい
った。でも自分から脱落していった。

永山 西三河ブロックの2期生として勉強させて頂いた。保守的な地域で、転勤族で反骨精神旺盛だ
ったことで選ばれたと思う。みちの会に入った事で育てられた思いがある。

山本 なぜこの人達といっしょにいるのだろうと思ったりしていた。その時の皆さんとのかかわりが
（隆子）
今の自分を育ててくれた。

先生 山本さんが、一番大きく育ったと思っている。皆さんはどうですか？

永井 別人みたい！

先生 特に女性は潜在的にもっている能力を、地域のしがらみとか、家庭のしがらみとかで発揮出来
ないでいた。それを引き出そうとしてつくった会だ。室長が言っていた言葉に“錆びついた錆を



落とさなくっては”と。皆さんは本来持っていたものを出せるようになってきた。

青木 名古屋生まれなので抵抗なかったが、名古屋
の方に“地域とは何ですか？”と聞かれてびっ
っくりした。一泊研修で交流した女性のグルー
プがとてもすばらしかったので、自分達もこう
になりたいという期待と希望でいっぱいになった

吉岡 地域という言葉にこだわって、名古屋の方と納得いくまで話し合いをしたことが印象に残って
いる。名古屋の方といっしょでよかったと思っている。

宮地 大家族のなかで子育て孫育てをしていたので、名古屋の方達の男女平等の考えに驚いた。
今は夫も自分のことは自分でやるようになった。

先生 河津さんお久しぶりですね。

河津 知多半島へ出掛けでも迷子になったりして大変だった。これからは頑張って出席したい。

武井 名古屋に引っ越してきてびっくりすることばかりだった。

知多の方達との交流はとても勉強になった。とても楽しかった。

今野 東海市でフォーラムを開催したとき参加させて頂き大変勉強になった。

青井 相談員をやっていて女性問題に気持ちがあったので参加させていただいた。

女性問題は高齢者問題につながると言うことを知多の方との交流で知った。これから大変な時代になることをその頃感じ、取り組んでいかなければと思っているが時間と暇のないのがネックになっている。

山口 発表の時の資料を作るとき知多の方と納得いくまで話し合ったことが忘れられない。地域という問題以外のことも、知多、名古屋ということではなく育った環境によって考えは違っていくのではないかと思う。

自分の発言が知多の方に話題を提供したということは森田さんから聞いていた。

鷹羽 多くの方たちとの出会いや、多くの経験をさせて頂いたことで、視野が広がったことに感謝している。

服部 自己紹介のとき開発委員になってしまったと言ったら委員は私たちですと先生に言われた。何をやっていいか戸惑った。

知多で行う会合にいくと田舎に帰ったみたいだった。人間のつながりが出来たように思う。

報告書にお葬式のイラストを入れた記憶が残っている。

夫をないがしろにしている生活（フルタイムのボランティア）をこれからも続ける事になると思う。

斉藤 田舎に嫁ぎ田舎の風習にジレンマを感じていた時地域開発の勉強会に先輩のすすめで参加することになった。名古屋に住んでいたということもあり、とても心地よさを感じ名古屋の方達の言うことにうなずけた。しかし地域に帰るとその風習に従う生活をしてしまう。自分の意見をしっかり持っている人達に出会えた。自分の地域も今では過ごしやすい環境になったと思う。

飯田 対面式の時、この人たちの仲間に自分は入るわけがないと思っていた。今ここに座っていることも不思議なくらい3期生までの人が恐く思えた。

鈴木 知多の方達の冠婚葬祭のしきたりや生活がめずらしくて感心して聞いていた。その時から見ると現在の変化はめざましい。あの頃勉強したお墓のことなど此処まで変るとは思ってもみなかった。



丹羽 個人的な面で振り返って見ると、育った環境も嫁いだ家も“女性は斯くあるべきだ”という考えのなかで過ごしていた。地域開発の勉強会では皆さんが自分の意見を持っていた。

今までの自分を見つめなおし、人との関わりを持つように努力した。その時夫から、“君このごろ強くなったね”“ものがはっきり言えるようになったね”と言われた。10年後“君に少し学ぶところが出来た”と夫に言われるまでになった。みちの会で学ばせて頂いたおかげだと思っている。

伊藤 (あ) 問題意識を持たなければ進歩はないのだと気がついた。

地域開発の勉強会で温めていた問題が少しずつ実りつつある。(地域助け合いの会、高齢者・障害者とのふれあいハウス)

安達 同期の人達が立派になっておられ、奮起させられた。

内田 目が覚める思いで勉強させて頂いた。出席することが楽しかった。

阪野 昨年、一昨年と役を頂いたので頑張れた。

夫が単身赴任をしているので、女4人で生活している。

星 みちの会に入会し、男女役割分担などいろいろ勉強していくうちに、NOを言えることが出来るようになった。しかし夫がストレスを感じるようになり、女性は補佐役であることも大切だと思った。

東海市では、「女性のつどい」を実行するのに私たちみちの会会員もかかわっている。また、ネットワークの連絡協議会を作る動きがあり、会員として力を出して行きたい。

戸田 人間性をみてお付き合いをしていこう、そして良いところを取り入れようと思った。勉強会は楽しく、趣味を持っている人達とお付き合いは自分を高めてくれた。

片山 社会教育課の課長さんが、「長い目で見てくれるグループは大切なんですよ」と言って下さった。会を続けていることの大切さをあらためて思った。

家庭のなかで抵抗しながら自分らしさを持って、長く細く納得して活動してゆきたい。

先生 10年の間に社会も家庭も変わり皆さんも大きく変わった。人前での発表も昔から比べると、

堂々として、核心をついたスピーチが続くようになった。

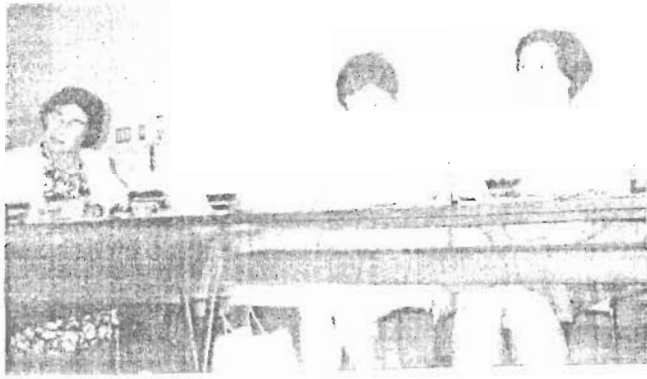
男女は平等だけれど、女の感じ方は違う。政策決定の場で、女にしか分からない部分を堂々と発表してほしい。自分のカラーをしっかりと持てるようになった皆さんに期待している。国の機関の男女共同参画審議会で、「男女共



「同参画ビジョン」21世紀の新たな価値の創造という資料が出来た。

10年後はずいぶん変わっているだろうと思う。

司会 まだいいたりない方もあるかと思うが、当日のフォーラムの時には時間がなくて皆さんから充分な発言を頂けないのではないかと考え、今日の会を持たせて頂いた。



第2回学習会に参加して

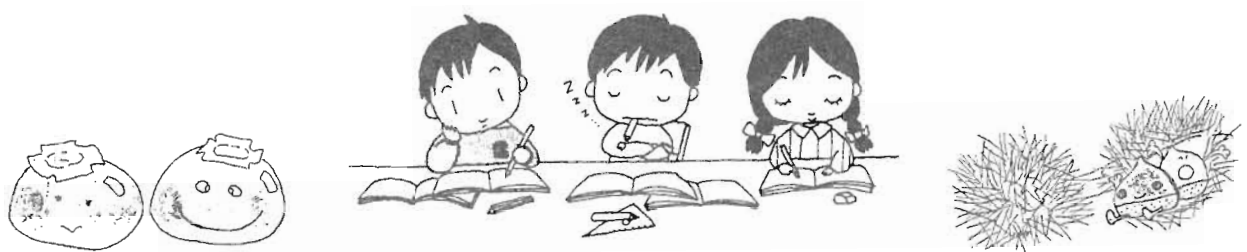
10周年に寄せて

河津 百合

知多の会場では、いつもテーブルに並んだ山ほどの手作りのデザートやお菓자에思わず暖かい気分になったものです。が、しかしそこは、問題意識をしっかりと持った自立した女性の集まりの場でした。行政からは受け手の立場のみの私でしたが、女性自身の参画で、小さな波もしだいに大きなうねりになり、着実に世の中を変革していくと、この10年でしっかり実感しました。西暦2000年を目指してスローガンが掲げられています。世界中の女性にその灯がともされるように。

江上 弥生

知多の各市町で研修会、フォーラムが開催され、経験することのできなかった各地域の独自性、においに接し興味を感じ、楽しみでもありました。また、知多地域の方々の細やかな心遣いにはその地域に根付いた生活からしみ出る暖かさを感じました。その独自性、においをいかに住みよい社会環境に育てていくか、女性の生き方、高齢化社会の複雑な問題を通して、真剣に研修し行動するすばらしい会に発展してきたこの10年。研修をなまけている自分が残念です。



男女共同参画社会づくりに向けての 全国会議に参加して

山口 道子

今から2年前、内閣総理大臣から諮問を受けた男女共同参画審議会が、答申を出したと聞き、男女参画社会づくりにむけての全国会議〔平成8年9月25日（水）13:30 から国立教育会館に於て、男女共同参画推進本部 総理府の主催〕に出席しました。

1300名の席に入り切れない程の人々が全国から集い、熱心に聞き入りました。

会議は、女性担当大臣の梶山静六氏の挨拶に始まり、猪口邦子氏の基調講演、男女共同参画審議会答申の報告を縫田曄子会長がされ、シンポジウムに入りました。

今回答申の出されました「男女共同参画ビジョンー21世紀の新たな価値の創造ー」について少し記してみますと

男女共同参画社会の基本的な考え方

- (1) 男女共同参画社会とは、男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、ともに責任を担うべき社会を言う。

この答申は、女性と男性が、社会的・文化的に形成された性別（ジェンダー）に縛られず、各人の個性に基づいて共同参画する社会の実現を目指すものである。

- (2) 男女共同参画社会の理念と目標は5つあり、

ア、人権の確立

イ、政策・方針決定過程への参画による民主主義の成熟

ウ、社会的・文化的に形成された
性別（ジェンダー）に敏感な
視点の定着と深化

エ、新たな価値の創造

オ、地球社会への貢献

を2010年に視点を合わせ決めています。

縫田さんは、これらが実現する為には、既得の権利を放棄することがあっても、新たな大きなものが見えてくるし、また得ることができる」と述べられた。

シンポジウムに入り、早稲田大学の岡澤憲芙教授が、今地球には209の国があり57億2000万人が生きている。内日本人は、1億2556万人で全地球の2%の人口となっている。GNPが一人当たり3000ドルを越えている国は、全世界で3国しかなく、スイス・ルクセンブルクに



次いで日本となっているが経済大国であると言う個人個人の実感はない。これからは、地域社会の充実がポイントと話された。

全国女性農業経営者会議初代会長の清水照子氏は、初めて農事組合の理事に女性になることの苦心談を、又これからの希望を話された。

昨年東海市の女性の集いで講演された（財）市川房枝記念会常務理事の山口みつ子氏は女性団体が社会的に影響を与えられるように力をつけ、市町村へこの答申が浸透出来る様にと、元気よく私達に、語りかけられた。そして、その時は今と結ばれたことが強く印象に残っており、又、大きく力づけられた。



—女性参政50周年フォーラム—

日時 1996年9月12日 12:30~20:25

場所 愛知県女性総合センター (昼・ウィルホール 夜・大会議室)

「女性参政50周年フォーラム に参加して

野田 うめ子

「女性参政50周年記念フォーラム」に、美浜女性の会役員一同参加した。今年度会の活動として、町外研修でウイユ愛知施設見学に合わせたもので、午前に館内を案内して頂き、午後講演を聞くというスケジュールでした。

「女性、個性、参政」と題して作家萩野アンナさんが講演され、家に順応だった祖母、石橋を叩いて渡った母、自由奔放に学生時代を過ごした私、の行き方を通して、女の道から一歩踏み出すことから女の道は拓かれる。男も女も意見を出し合い、複数意見を束ねていくことが、社会の方向性のゆがみを修正してくれる。男と女がともに造る社会は政治も正しく動かしてゆく力となる・・・。

私たち一人一人の個性と能力を社会でお役に立ててこそ、男女共同参画社会の実現といえましょう。

グローバル感覚 磨いていますか？

日本女性会議 96 うつのみや に参加して

水 上 規 子

みちの会とこなめの3人は10月14、15日、日本女性会議'96 うつのみやに参加するため初めて一泊の旅に出た。

栃木県宇都宮市は県庁所在地で人口43万人、北関東の中核都市に似合った風格と文化の薫りをもつ個性ある街造りを目指しており、活気に満ちていた。

10月14日午後、宇都宮市文化会館で開催されたシンポジウムは『行動力は力、ともにエンパワーメント』という新しい感覚のテーマで司会には小宮山洋子NHK解説委員を、シンポジストには



橋田須賀子（脚本家）、坂東真理子（埼玉県副知事）、林望（作家）と豪華メンバーを配していた。しかし、2500名の定員に対して3000名以上を受け入れたため、全参加者を主会場の大ホールに収容出来ず、少し離れた体育館に第二会場を設け、私たちはそちらへ移動を余儀なくされた。こちらではハイビジョンの画面の映像を見て会議の内容を知ることになっていたが、開会してしばらくしたら音声途切れてしまい、折角のシンポジウムも話の内容は分からず興醒めで終わってしまった。

翌日は、9:30～14:00まで8グループに別れ、各々の会場で分科会が行われた。私は第4分科会『世界の中の女と男“グローバル感覚 磨いていますか”』に参加した。会場は今春開館したばかりの「とちぎ女性センターパルティ」であった。このパルティは戸塚の女性フォーラムに似てこじんまりとした建物で、前庭が広く中央にシンボルツリー「栃の木」が植えられており、屋外ステージ、芝生広場、散策路などがあって気持ちよい雰囲気を醸し出している。建物内の床や階段には木材が使用されており、各階とも中庭に面してベランダが配置してあった。

分科会は、世界各国の伝統的な風俗・習慣・言語・宗教などの違いは、さいきんの国際化社会の中で多くの論議を呼んでいる。経済発展の中で地球規模で開発が進んでいるが、私たち一人一人が国際理解・交流・協力を通して『地球人としてどう行動し、国境を超えたパートナーシップを求めていけば良いのか？』とみんなで話し合った。コーディネーターは女性差別撤廃条約の研究者・山下康子文京女子大学教授、パネラーは伊藤満子外務省国際社会協力部人権難民課長補佐、安井武雄アジア学院農村指導者専門学校職員、田中由美子国際協力事業団国際協力員の皆さんであった。質疑応答を入れて3時間半の長丁場、400名収容のホールは熱気でムンムンしていた。

3人のパネラーの中で、ジャイカの活動で夫と子供を日本に残して2年間、ネパールで村人と生活を共にして村落振興、森林保全のために働いて帰られた田中さんの話に感銘を受けた。

締めくくりにコーディネーターが『お互いが分かち合い、ともに生きることが必要である』と話された言葉が、うつのみや '96に参加して得た一番の収穫だった。

中津川在住の近藤愛子さんが、ネパールの山間の村に女性だけで、10年間に学校を10校建設されたお話を、ご本人から直接うかがって感動したのは今年の夏のことであった。また、私事ながら夫が昨年と今年、二度ネパール訪ねている。日本人と似ているネパールの人たちをとても身近に感じている。



高山市内の民芸品を売る店で

宇都宮から帰った翌日から一週間、定年で退職し好きな陶器を焼いて売って楽しんでいるご主人と、音楽好きで自ら古式のビオラとリコーダーを演奏する、60歳半ばの米人夫妻をホームステイさせた。千葉、大分、常滑と一週間づつ好きな焼き物を意欲的に見てまわった。こんな国際交流と親善の実践は生活に刺激を与えてくれるし、趣味を通してグローバルの感覚を磨くことができると思っている。

会員情報コーナー

さわやか北海道への旅

三樹の会

8/23～26 全行程1,076 k「阿寒・富良野・札幌」。

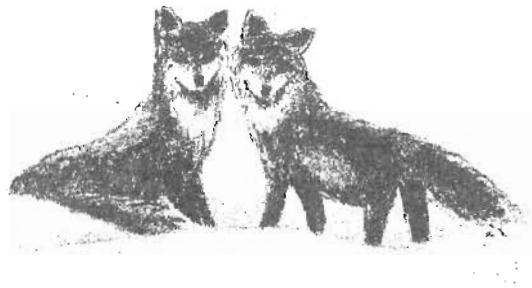
「三樹の会」面々9名、2年越しの空の旅実現を喜び合って、いよいよ11時40分、熱望の北の国へ3泊4日の空の旅へ出発しました。

千歳より観光バス。車窓に映る風景は限りない大地の懐の中を30余名を乗せて、これより繰り広げられる未知への期待と喜びを満載して走っています。

層雲峡「銀河・流星の滝」の豪快さ、降雨の為濁流が渦巻き、豪放そのもの圧巻でした。

歌で有名な摩周湖、霧の摩周湖もいいけれど、遠来の客に半ば諦め気味の頂上で、不思議と霧も晴れ、むしろ若干の薄曇りの神秘的な湖の姿に私たち感激の一言につきました。

車窓を通して、時折りに姿を見せる鹿・鹿・鹿。道のド真ん中に！ドッコイショッ！と北キツネの夫婦か・親子か・恋人か、寄り添っての愛らしいしぐさに歓声。「近来始めて」との添乗員の感想に好感を持ってくれたキツネ・鹿に感謝。



願わくば「クマに遭いたいナア・・・」と願った私のつぶやきは満たされませんでした。「マリモの歌」で知られる阿寒湖。静かな湖面をモーターボートに分乗。神様の業としか思へぬ「マリモ」生息の湖。芹洋子の歌を耳にしつつ、少々センチメンタルな感傷にひたりつつ一夜の宿となりました。

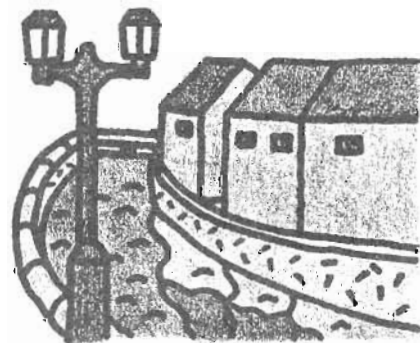
翌朝「笠雲」をかぶった雄阿寒岳の雄姿には、

神様の造形の見事さに畏敬のおもいで、ホテル最階上露天風呂で眺め入りました。

富良野 みみざわりのよいこの地名、ラベンダーの季節は過ぎ、コスモス・マリーゴールド・サルビア等々、目の前に展開される360°近いワイドの丘陵、これが本当の北海道らしい処といえましょう。

金200円「トラクター遊覧バスもどき」も楽しく、雪の季節ぜひ、この大地にたっぴたいと思いました。

碁盤割りの札幌、さすが道一の都市、大通り公



小樽運河

古き良き時代の面影を残す倉庫群と石畳。夜はガス灯でライトアップされ、ロマンチック。

園・時計台・旧道庁・すすきの・
それぞれに希望に合わせて散策。
トーマロコシ・バタジャガ・ラベ
ンダー・ソフト・メロン・牛乳・
マトン・毛がに・イカソーメン・
硫黄山・玉子等、止めには「サッ
ポロラーメン」よくぞたべました
ね。

翌朝、旧き面影を残す小樽運河
散策を最後に帰途につきました。
軽やかな出発時の旅装とは似ても
似つかぬ旅姿、溢れんばかりの
味・香りを満載して2年後を約
し、賑やかな解散と致しました。

「三樹の会」という呼称は、
「みちの会と三期生」を合体させ
編み出した三期生固有の名称で、名古屋・知多地域婦人研究員という学びを通しての私た
ちが、目に見えぬ糸の縁で、共に兄弟・姉妹の情をもってお互いを尊重しつつ道を求め、
時には同志のような友情をもって親交を深めてゆくに心し、心強い友のある事に感謝し
つつ、地域への活力の一助としてゆきたく希っております。

拙い紀行文をお読み頂きありがとうございました。



文責 小瀬木 富子

会員情報コーナー

厳しく楽しく 沖縄の旅

永山 峰子

何度か機会があったのに、逃していた沖縄の旅を、やっとこの夏に実現できました。名古屋YMCA主催で、8月26日から29日までの4日間を聴覚障害者2名を含む14名の人達と一緒に、大いに学び楽しんできました。

一日目、那覇空港に着くと、平和ガイドの又吉京子さんが待っていました。早速マイクロバスで基地めぐりです。嘉手納基地、普天間基地、キャンプ・フォスターを見ました。条件の良い土地に基地が集中し、一般住民はその外に追いやりられ暮しています。

佐喜真美術館にも行きました。この美術館は米軍からとり戻した550坪の土地に建てられたもので、米軍普天間基地に隣接し、鉄条網で隔てられています。丸木位里、俊夫妻の「沖縄戦の図」を中心に、コルビッツ（ドイツ）の作品等がそろっています。屋上からは、青い海が見えます。砂浜は、沖縄戦で、米軍が攻め上がって来た所です。美術館にはゆったりとした空間が用意されていて、静かに考える場を提供しています。素晴らしい美術館でした。この夜は、沖縄の歴史について一坪反戦地主代表の平良修さんの話を聞きました。大切な話なのに疲れが出たのかボーとしていました。

翌8月27日 早朝より、市議員の高里鈴代さんより、基地と女性について話を聞きました。軍隊とは構造的暴力であること、昨年9月におきた米軍兵士による少女暴行に至る沖縄女性の痛み、悲しみを学びました。その後、南部戦跡めぐりに出かけました。南風原文化センター、糸数壕（かいて）、平和の礎、ひめゆり資料館等、暗く重い問題ばかりのしかかってきました。特に、糸数壕でおきた日本軍による一般住民に対する惨劇。老人、子ども、女性にまで死ぬことを要求し「集団自決」を強制したことは、何ともせつなく、つらく涙しました。

夜は気分を変えて、琉球料理と琉舞を楽しみました。

3日目 フェリーで伊江島に向かいました。30分程の短い船旅でした。島の上空を米軍のヘリコプターが2機訓練連中でした。

伊江島では底抜けに明るい運転手さんのマイクロバスが待ち受けていて、早速「ヌチドウタロウの家」に行きました。ここで93才になられた阿波根昌鴻さんから話を伺いました。高齢で両眼とも視力を失い車椅子に乗ってニコニコと歓迎して下さいました。彼の著書である、岩波新書「米軍と農民」「命どう宝」などを読んでいましたので、彼の今までの苦労をおもい、また涙しました。

いよいよ最後の日です。今日は沖縄文化めぐりです。首里城、那覇公設市場、伝統工芸



館等に出かけ、紅型の美しい敷物と壺屋焼きの食器を何点か買いました。沖縄の民家の屋根で見かけるシーサーはお金が足りず変えませんでした。残念で仕方ありません。

聴覚障害者の方との旅は手話、要約筆記を必要としました。みんなで手分けして、その役目を担いました。（私は要約筆記のみ）共に生きる社会を実感できた旅でもありました。

日本の米軍基地の75%を抱える沖縄の現実、本当に厳しいものです。その中にあって、沖縄の人たちは、明るく、沖縄の平和、日本の平和、世界の平和を求めているように思いました。彼らの痛みを知った今、私に何が出来るのか問いかけています。まずは、旅に出かけた人たちと、沖縄の勉強会を始めました。学ぶのみでなく、歩み出す一步を求めて。

おわり

みちの会今後の予定

〔全体会〕

日時 12月3日（火）13：30－15：30

場所 伏見プラザ 10階 研修室

議題 第10回フォーラムの反省
次年度みちの会の運営について

〔幹事会〕 同日 10：00より

〔新年懇親会〕

日時 1997年1月11日（土）時間 未定

場所 未定



編集後記

里にも訪れた紅葉、豊かな晩秋とともに、11号ができました。

10年経てみるとわかること、発見することが、紙面に溢れています。

テープおこしで困っていることを一つ。それは、発言するとき、大きな声で、言いたいことを簡潔に言っていないということ。つまり、話しことばに、もっと気をつけていただきたいと思います。

みちの会だよりを、楽しく続けていく為に、お願いしま～す。

今回もたくさんのおたよりをありがとうございました。

編集委員一同